

地域のさまざまな集まりで、子育てや親のあり方について学びあうための教材
『「親」をまなぶ・「親」をつたえる』

シリーズ
教材・カリキュラム
紹介



○教材の趣旨

「親」としてのあり方や子育てについては、だれにでもあてはまる答えというものはありません。自信をもって子どもに向き合うことの大切さや、自分を大切にすると同時に相手を尊重する気持や、人と人とのつながりの大切さなどを、保護者自身が子どもとともにしっかりと学びあい伝えることが私たちに求められていると考えています。

この教材をヒントに、多くの人々が「親であること」の大切さや子育てについて積極的に話しあい、子育ての楽しさやすばらしさをつたえあうことで、みんなが子育てに関心を持ち、ともに子どもたちをあたたく見まもる関係づくりがすすむことを期待しています。

『「親」をまなぶ・「親」をつたえる』の発刊に寄せてより
大阪府社会教育委員会議議長
親学習プログラム研究開発委員会委員長

岩堂 美智子

そうぞう

8

2004.12*No.11

○教材の内容・特質

この教材は、中学・高校生、子育て中の親、子育てを支援する時期までの幅広い世代を対象とし、周囲の人との対話やふれあいをとおして、参加者自身が主体的にまなぶとともに、子育てを支えあう地域での人間関係づくりについて考えることをめざしています。

教材の内容は、身近な「エピソード」を題材に「話しあいのポイント」が示され、参加者どうしが自分の経験と比較し、共感したり反発することから対話をひろげ、いろんな人の意見を聞くことにより、自分自身の子育てについて考え、まなぶことにつながるよう考えています。

エピソードの一例

